

令和7年度 第7回 日本診療放射線技師連盟理事会 議事録

日時：令和7年12月15日(月) 18:30~19:15

会場：Web開催

参加者 理事長：畦元将吾

副理事長：上田克彦、江端清和、角田喜彦、中上康次、丹羽政美

理事：江田哲男、江藤芳浩、界外忠之、木口雅夫、後閑隆之、木暮陽介
佐藤晴美、澁谷一敬、園田優、杉澤路子、谷本恵子、富田博信
中村勝、中村泰彦、西小野昭人、長谷川雅一、藤井雅代
山本英雄

監事：田中功

陪席者：芳士戸治義、各地域連盟支部長

司会進行：中上康次

書記：谷本恵子

(敬称略)

業務報告・周知事項（報告期間：前回理事会～本日）

1. 連名活動報告 木暮事務局長

10月29日(水) JFRT主催 第19回定例勉強会開催

11月12日(水) 自民党団体総局厚生関係団体委員会・厚生労働部会

「予算・税制等に関する政策懇談会」に出席

11月12日(水) 第5回「日技連/日放連」連盟定期連絡懇話会開催

11月18日(火) 参議院選挙自見はなこ政策セミナーに出席

11月20日(木) JFRT主催 第20回定例勉強会開催

11月21日(金) 公明党診療放射線技師制度に関する議員懇話会に出席

※ (公社) 東京都診療放射線技師会会誌に日本診療放射線技師連盟ニュース掲載依頼

※ HP作業：グーグルカレンダー予定追加、連盟ニュース・定例勉強会 アップ

新体制への移行について改修中

2. 会計報告 木暮事務局長

連盟会員数は 715 名（2025 年 12 月 14 日時点）

2025 年度の年会費納入状況は 256 件、寄付は 21 件

2024 年度の年会費納入状況は 472 件、寄付は 15 件

2023 年度の年会費納入状況は 169 件、寄付は 21 件

連盟残金：306,359 円（2025 年 12 月 14 日時点）

会費未納の主な理由は、会員システムのマイページに入ったことがなく、入金方法が分からないことだと考えられる。会員システムからのお知らせメールは届いているものの、会員システム自体を利用した経験がないため、結果として振り込みに至っていない可能性が高い。そのため、会員システムへの登録方法やログイン手順、入金画面までの流れを丁寧に案内する通知を、年内に再度行うことが望ましいと考えている。

本会の年会費は 12 月締めで、2025 年度分は 12 月 31 日までが期限となる。年内の入金が難しい場合は、年明け早々に改めて案内し、未納分と次年度分をまとめて支払ってもらう対応も想定している。マイページにログインすれば未納状況は一目で確認できるため、そこまでのどり着ければ多くの会員は支払いを完了していただけると思う。

3. 連盟会員システム報告 角田副理事長

会員システム上の会員数は 715 名、システム利用者 695 名、退会人数 20 名となっている。

現在、新入会があった時点で、個人宛にマイページ作成を依頼する案内文を送付している。案内では作成方法も説明しているが、会員側がマイページを作成し、支払い手続きを行ってもらわなければ対応が難しい状況である。12 月の理事会終了後、事務局の方針に従い、未対応者に対して改めて支払いの催促を行う予定である。

4. 理事長報告 畦元理事長

畦元理事長より報告があった。

来年度は、地方との協力体制をより強化し、連携を深めていきたいと考えており、その具体的な方法について木暮事務局長と相談していく予定である。また、これまでの経験から、連盟の会員数は大きな影響力になると実感しており、今後は会員数

の拡大に注力していきたい。そのため、木暮事務局長、上田副理事長、中上副理事長をはじめ、関係者のみなさまの協力を得ながら、より多くの入会を促す取り組みを進めていくことをお願いしたい。

5. 日本診療放射線技師会会長報告 上田副理事長

上田副理事長から日本診療放射線技師会の報告があった。

日本臨床衛生検査技師会および日本診療放射線技師会との定期懇談は継続していくが、日本臨床検査技師連盟と日本診療放射線技師連盟との定期懇談会は、選挙対応が一区切りしたため一時停止となった。再度必要が生じた場合には、選挙活動として再開する方針である。臨床検査技師側からも力不足を認める声もあったが、同時に我々診療放射線技師業界も、票を積み重ねていかなければ外部への協力要請が難しいという認識を改めて持った。今週木曜日に自民党の医療系議員による社会保障を守る緊急集会が開催される予定で、田村憲久議員がトップ名義となっている。急遽案内いただき自分を含め計3名の参加登録を済ませている。

6. その他

木暮事務局長

第21回定例勉強会の案内を、延べ約2,000名に配信する際、本来Bccで送信すべきところをToで送信してしまう事故が発生した。配信は数百名ずつ手動で行っており、すべてTo配信となっていた。指摘を受け、謝罪文を送付したが、文面表現についても再度指摘があり、結果として2回にわたり訂正・謝罪文を送付することとなった。送信停止を希望する数名については、事務局から個別に謝罪し、対応済みである。

事故の背景として、学会バンクの会員システム登録者への案内は自動配信で問題はない一方、定例勉強会は過去に取得したメールアドレスを用い、手動で配信している点である。定例勉強会は、技術的勉強会を通じて政治的理解を深め、連盟会員への加入につなげることを目的としており、単発参加ではなく会員化を重視している。しかし、現状では全体の約1割にとどまっている。

事務局業務は、通常業務と並行しながら主に業務終了後に運営にあたっているため、大量の手動配信による人的ミスが起り得る状況にあった。指摘の中にはメールマガジン化の提案もあったが、そのためには独立したデータベース管理や配信停止対応などが必要となり、事務局負担が大きいことが懸念された。

今後については、低コスト・低労力で運用可能な方法があればご提案いただきたい。現時点ではダブルチェックを徹底し、Bcc 配信を厳守する運用で再発防止を図りたいと思っている。

上田副理事長

Google フォームには、回答が送信された際に回答者本人へ自動でメールを送る機能があるが、無料版では 1 日あたりの送信数に制限があることが分かった。一方、有料版ではより多くの送信が可能で、スプレッドシートと連携して、過去のリストから個別にメール送信する機能も利用できるようである。この仕組みを使えば、Bcc による一斉送信ではなく、1 人ずつ個別にメールを送る運用が可能となり、誤送信リスクの低減が期待できるのではないか。ダブルチェックを行っていても将来的に同様の事故が起こる可能性があるため、こうした仕組みの導入を検討・研究してみてもはどうだろうか。Google やスプレッドシートを活用した一斉送信管理ツールについても、簡単に設定できる方法があるとの提案をもらった。

木暮事務局長

実際には、中上副理事長と事務局でこれまでの勉強会でのメールアドレス等の重複を除外し、新規参加者のみを抽出した定例勉強会専用のメールアドレスリストを作成していた。しかし、そのリストを手動で一括配信したことが今回の問題につながった。今後、手動配信や Bcc によらず、1 人ずつ個別送信できる一斉配信方法が確立できれば、同様の事態は防げる可能性が高い。そのため、適切な配信方法について改めて検討・相談させていただきたい。

中上副理事長

広島県報告である。

広島県では 16 年続いた知事の交代があったものの、政策運営は引き続き自民党広島県連主導であり、大きな変化はない。県連会長をはじめ、地元選出の国会議員やその事務所、参議院初当選議員とも継続して連絡・意見交換を行っている。各都道府県で状況は異なるが、支部長においては、地元政治家との連携を強化し、関係を良好に保つことが重要である。本部のみからの要望ではなく、全国各地から同様の意見が上がっている形を作ること、声が届きやすくなる。現在は、連盟本部のみの活動では不十分であり、全国の支部長と連携して行動する必要がある状況である。進め方が不明な場合は、ご相談いただきたい。今後も全国一体となって取り組んでいきたい。

畦元理事長

追加事項である。

診療放射線技師に関する議員連盟については、従来のラジエーション議連と診療放射線議連の2つが統合され、ラジエーション議連として一本化された。会長は田村憲久議員、事務局長は三重県の川崎ひでと議員が務められることとなり、先日面会した。今国会は既に終了しているため、来年1月から始まる通常国会に合わせてラジエーション議連での議論を進める予定である。議論の内容については、田村議員の意向を踏まえ、アクチニウムに関する事項に加え、診療放射線技師会からの要望や課題を取り上げる形で検討を進めている。今後は、関係者皆さんの意見も聞きながら内容を調整していくが、ラジエーション議連として活動を継続していく方針であり、引き続き協力をお願いしたい。

上田副理事長

畦元理事長、木暮事務局長とで、小林孝一郎議員の事務所を訪問した。岡山出身であり、岡山事務所の秘書が診療放射線技師の藤原氏であることから、岡大技師長の紹介を受けて挨拶させてもらった。

中上副理事長

小林孝一郎議員は前回の衆議院の際、中国ブロックにおられた方で何回か応援する会を本連盟で開いているため親しみを持っていきたいと思っている。

審議事項

1. 連盟事務所移転について 木暮事務局長

これまで事務所は、日本診療放射線技師会および埼玉県診療放射線技師会の事務所にて運営してきた。今回、畦元先生が理事長に就任したことに伴い、東京都内（スクエア10階）への事務所移転を検討している。承認が得られ次第、移転手続きを進める予定である。また、電話番号についても新たに変更する予定である。FAX番号については、03-6740-1913（EメールFAX）を引き続き使用する。

事務所移転に関して、賛成多数で承認された。

2. 2026年度年間計画について 木暮事務局長

来年度の理事会については、これまでの連盟理事会の開催実績を踏まえ、年4回の開催を計画している。2025年度は選挙対応のため、理事会を比較的頻回に開催し

たが、2026 年度については選挙の有無が未定であるため、通常開催とする。

現時点では、3 月、5 月、10 月、12 月の計 4 回とし、いずれも月曜日 18 時 30 分開始で予定している。

畦元理事長および上田会長には、事前に日程案を連絡し、当該日程で支障ない旨の確認を得ている。ただし、他の会等との重複などにより支障が生じる場合は、日程変更も可能であるため、ご意見いただきたい。

2025 年度の理事会では、陪席者および各支部長の参加があった。2026 年度についても、陪席者ならびに連盟支部長の参加を可能な限りお願いしたい。陪席者および支部長には議決権はないが、理事会への参加を通じて情報共有を図ることを目的とする。先ほど示された地域との連携強化の方針を踏まえ、理事会本部と支部が分断されることなく、一体となった体制で活動を進めていきたい。そのため、理事会開催日程については、支部長にも可能な範囲で予定を調整し参加してもらい、協力体制を構築していきたい。

2026 年度年間計画に関して、賛成多数で承認された。

理事会総括 丹羽副理事長

第 7 回日本診療放射線技師連盟理事会の総括を述べられた。

以上